

こんにちは 町会です

わがまちの心をつなぐ 町会・自治会のふれあい活動



町会・自治会活動に参加して 世代を超えたふれあいを!

わがまち中央区の人口は、昨年四月には十四万人を突破し、現在、平成九年の最少時の二倍を超えています。

区では、区民の誰もが「快適な都心居住」のもと、将来にわたり安心して住み続けられるまちづくりに取り組んでおります。

まちのにぎわいが増す中で、あらゆる世代の方たちが、安全・安心に暮らし続けていくためには、地域の人々同士の相互理解や信頼関係の構築が何よりも大切となります。

地域の中で、その中心的役割を担っているのが町会や自治会です。

町会・自治会は、地域コミュニティの核として、防災・防犯活動や高齢者への声かけなど、日々の暮らしに密着した活動を幅広く行っています。

特に、防災活動については、防災訓練の実施や災害用備蓄品の点検・充実を図るなど、安全で安心なまちづくりにまちぐるみで取り組んでいます。

さらに、盆踊りや餅つきなどの伝統行事も盛んです。子どもから大人まで幅広い世代の方たちが交流を深められる魅力的なイベントとして好評です。

この「こんにちは町会です」は、主に町会・自治会に未加入の方に、町会・自治会のさまざまな活動を知っていただくことで、加入参加のきっかけとなることを目的としています。

さあ、あなたも地域コミュニティへの参加に向けて第一歩を踏み出しませんか。素敵なまちづくりに一緒に取り組みましょう!



京橋川の再生を目指して 「おもてなしの庭」を整備

京橋三丁目町会

会長 きのした 木下 しょうご
しげる 茂さん



京橋三丁目町会の会員数は約百二十で、そのほとんどが法人です。そこで町会は企業の積極的参加を促すため、京橋の魅力を発信する多彩な活動を行っています。

「十年ほど前に町会で『明日の京橋を活性化させる会』を立ち上げ、地域の文化遺産の復活、環境改善に取り組んできました。それが『京橋川再生の会』につながったのです。」と語るのは、京橋で生まれ育った木下会長です。

かつてこの地には京橋川が流れ、「京橋大根河岸」と呼ばれる青物市場が栄えていました。しかし昭和初期に市場は築地へ移転。川は戦後に埋め立てられ、その上に高速道路が造られました。

町会は京橋川の再生を目標に、中央大学石川幹子教授と共同で「NPO法人京橋川再生の会」を二〇一〇年に発足させました。その三年後には町内区道の一部の愛称名を「京橋大根河岸通り」と「京橋竹河岸通り」とすることが中央区より承認されました。

「大根河岸緑地帯を『おもてなしの庭』として整備するプランも作成しました。これが『緑の環境デザイン賞』（公益財団法人都市緑化機構・



第一生命保険株式会社主催)の大賞を受賞したので、二〇一七年までに緑地帯は緑化整備されます。また祝祭日に高速道路の一部を

『一日空中遊歩道』として開放することも提案しています。」と木下会長。五年前には「東京京橋・まち作事研究会」(作事の会)も発足。新旧企業が業種の垣根を超えて連携し、京橋地域のブランドを構築することを目指しています。

東北支援や野菜無料配布など 独自の活動を積極的に展開

「日枝神社の氏子なので『山王祭』(隔年、二〇一六年開催)は町会活動の核ですが、祭り以外の行事をいかに充実させるかが重要だと思っています。」と木下会長。

今年で十一回の「桜を愛でる会」では、大根河岸緑地帯の見事な一本桜を觀賞するとともに、近隣の公開空地を活用し、バンド演奏や東北復

興支援のトマト販売会などを実施しています。

また秋の「収穫祭」でも東北支援として和服地小物販売などを行うほか、演奏会、江戸伝統野菜の販売などを実施。



昨年は東京初の「いすーリーグランプリ」(事務椅子を使った耐久レース)も同時開催し、大いに盛り上がりました。そして大好評なのが「大根三百五十本の無料配布」です。「京橋大根河岸」が二〇一四年に開業三百五十年となることを記念し、その二年前から毎月、京橋大根河岸会(石川勲会長)主催により大根河岸緑地帯で配布。築地市場の豊洲移転前の、今年十月まで実施されるそうです。

こうした町会活動をはじめ商店・会社案内、京橋の歴史などを紹介しているのが、町会運営の「京橋3丁目ネット」で、大変充実した情報発信となっています。

「今後は『おもてなしの庭』を有効活用して地域活性化を強化し、住民と企業との融合、円滑な町会運営につなげていきたいです。」と木下会長。意欲的な活動が展開される京橋地域に注目が集まりそうです。



左から波多さん、諏訪副会長、木下会長、富川さん

～町会・自治会の情報サイト「中央区町会・自治会ネット」をご利用ください～

中央区では、町会・自治会への新規会員の加入促進および町会・自治会同士の情報交換等の連携支援を目的とした「中央区町会・自治会ネット」を開設しています。

このホームページでは、町会・自治会に関する情報について、団体検索や情報検索機能により、①各町会・自治会のプロフィール、②イベント案内、③活動報告、④名所名店情報、⑤加入のご案内などが閲覧できます。そのほかにも町会・自治会同士の連絡手段としての掲示板(会員のみ利用可能)や、地域に密着した行政情報などを掲載しています。

まちの魅力を共有する一手段として、「中央区町会・自治会ネット」を積極的にご利用ください。

中央区 町会・自治会ネット

検索

お問合せ先 区民部地域振興課自治振興係 03-3546-5337

※中央区のホームページからもリンクがありますので、ご利用ください。





良き伝統や慣習を残しつつ 時代に合った改革も遂行

富沢町町会

会長 宮本 晃男さん



富沢町は繊維問屋が建ち並ぶ商業地として栄えてきましたが、近年はマンションが林立するにぎやかな住宅地となっています。

「マンションは約十五棟あり、町会世帯数は約八百です。以前に比べて子どもが増え、町内に保育所もできました。けれど子どもが少なかった頃の学区制がそのまま、遠方の日本橋小学校に通学する児童もいました。そこで現状を区に訴え、町内の児童全員が近くの久松小学校に通学できるように変更していただきました。伝統や慣習を守ることでも大事ですが、時代に合わせて変革を行うことも町会の大切な使命だと思えます。」と語るのは、戦後間も続けてきた宮本会長です。



学区変更のほか宮本会長が新たに取り組んだのが「防犯きずなカード」の作成でした。「万一の事故や災害に備えた身分証明書で、氏名、住

所などの連絡先はもちろん血液型も明記しています。約二千五百人の全住民に配布したところ大変好評で、皆さんお守り代わりに携帯されています。」と宮本会長。これを参考に同様のカードを作成した他町会もあり、良い前例となっています。

まちの活性化を図るため 若手会員の活躍に期待したい

町内には富沢稲荷神社があり、「初午祭」など数々の行事が神社周辺で開催されます。一月の「餅つき大会」もそのひとつで、三つの臼と杵を使い、六十キロのもち米をつきまします。近隣町会からも大勢参加する人気イベントとなっています。

七月の「町会主催納涼盆踊り大会」も神社前で開催します。昼は子どもを対象にしたスイカ割り、夜は盆踊りで盛り上がり、焼きそば、フランクフルト、かき氷などの模擬店も出店します。二回目の二〇一五年には、



近隣町会の住民も含めて二百人以上が参加しました。同じく七月には婦人部が中心となって「屋形船親睦会」を企画。定員六十名の船を貸し切って柳橋から乗船し、隅田川を航行しながら食事やカラオケを楽しみます。

十月の「敬老会」では明治座での観劇会を実施します。劇場に近い富沢町だからこそ実現できるイベントで、毎回好評です。欠席の方には金一封をお渡ししています。

また富沢町町会は防災ヘルメットを全戸配布するなど防災意識が高いことも特徴です。中央区主催の防災訓練だけでなく、久松町町会や東京織物卸商業組合との合同防災訓練にも参加し、消火訓練や応急手当訓練などを実施。防災・防犯力の向上を図っています。

「町会活動の目的は住民同士の親睦を深めることにあり、先住者と転入者の交流は大切だと感じています。まちの活性化のために、これからは若いマンション居住者に町会活動を引っ張っていただきたいです。そのためにも今後一層、青年部や婦人部の若手育成に注力していきます。」と話



す宮本会長の言葉には、若手会員への大きな期待と町会のさらなる発展を願う熱い思いが込められていました。

～中央区の企業の皆様へ～ 町会では法人企業会員の方も募集しています

現在、「中央区」には、約3万7千の事業所があり、75万人の従業員の方が働いています。

「東日本大震災」では、お勤めの方など多くの方が帰宅困難者となりました。当日、中央区では、町会のご協力のもと2千人を超える人々を、19の防災拠点において受け入れました。

町会は、日頃から地域の活性化に加え、行政と連携した防災・防犯活動など安全で安心して暮らせるまちづくりにも取り組んでいただいています。

法人企業においても、いざという時のために日ごろから町会との連携を深め、協力体制を築いておくことが大切です。また、盆踊りや餅つきなど、町会主催のさまざまなイベントに参加することで、日中の多くの時間を過ごす地域の方とのコミュニケーションが図れます。さらに、町会に加入すると、区の商工業融資を利用した場合、借受人負担利率を優遇する制度もご利用いただけます。

ぜひ、この機会に町会への加入をご検討ください。皆さんの事業所がどこの町会エリアかなど、町会に関する詳しい情報は、2面記載の「町会・自治会ネット」でもご覧いただけます。





晴海4丁目住宅自治会

会長

中村 範子さん

なかむら のりこ

長屋のように絆が強く
思いやりにあふれた自治会



晴海4丁目住宅自治会は、一九六九年に建てられた十四階建てビルの住民で構成されています。この地域では先駆けとなる建物で、建設時は話題を集めました。

「今では埋め立て整備が進み、多くのマンションやオフィスビルが建っていますが、当時はこの建物が一番海に近かったのです。五階までは企業が入居しており、六階以上が住宅で総戸数は九十戸。転入された方には必ず自治会への入会をご案内していますが、賃貸であるため二年未満で転出される若い方も多く、現在の会員数は約六十です。」と語る会長の中村さんは、入居歴四十五年。住民の顔と名前は全部把握されているそうです。

年間行事は近隣町会・自治会と連携しながら行っています。大きなイベントは三年に一度の「住吉神社例大祭」。それが開催されない年は、晴海トリトンスクエアの水のテラスで「盆踊り大会」を開催します。自治会は長年にわたり、輪投げの模擬店を担当。景品をそろえてお祭りを盛り上げます。

八月の「東京湾大華火祭」の折は、見物客の誘導・警備に当たりますが、

「ここに長くお住まいの方も多いので、昔の長屋のようにお味噌やお醤油の貸し借りもできますし、私たちの子ども世代もいまだに皆さん

動なども実施しています。



餅つき大会、クリーンデー、近隣自治会と合同の防災訓練、夜間パトロール、歳末たすけあい運動なども実施しています。

小規模な自治会だからこそ
日頃の交流を大切にしたい



「自治会活動に携わったことでパソコンを覚え、配布物などを作れるようになりましたし、多くの方と交流することもできました。会長職に就いて十年ですが、ここまで続けられたのは、協力してくださる皆さんのおかげと本当に感謝しています。」と中村会長。晴海4丁目住宅自治会は、これからも相互扶助の精神を大切に温かな活動を続けていきます。



仲良しです。また、ご近所の様子が普段と異なれば、心配して私に連絡してくださることもありです。実際、その通報により一命をとりとめた高齢者もおられますから、日頃から関係を密にしておくことは大事だと思えます。」と話す中村会長は、東日本大震災の折、エレベーターが止まるなか、独り住まいの高齢者の方のお部屋を一軒ずつ訪ねて回り、倒れた家具などを起こす手伝いをされたそうです。

民生委員も兼任している中村会長はその献身的な活動の功績により、昨年、中央区より地域活動関係功労者として表彰されました。

コミュニティふれあい銭湯

中央区では、コミュニティふれあい銭湯として毎月第2・第4金曜日に一人100円(敬老入浴証持参者および小学生以下は無料)で銭湯の湯をお楽しみいただけます。

みなさんのご利用をお待ちしています。

平成28年度の前期は、下記の日程となっています。

【開設日】 4月8日(金)・22日(金) 5月13日(金)・27日(金) 6月10日(金)・24日(金)
7月8日(金)・22日(金) 8月12日(金)・26日(金) 9月 9日(金)・23日(金)

※第2金曜日は、季節にちなんだ花で浴場を飾ります。

【時間】 各浴場営業時間 【場所】 中央区内公衆浴場(銭湯)
【対象者】 中央区内在住・在勤者 【入浴料金】 一人100円 ※ただし、敬老入浴証持参者および小学生以下は無料



お問合せ先 区民部地域振興課区民施設係 03-3546-5623